



中学受験

HAND BOOK

いまどきの中学受験が

わかる！



東京個別指導学院
関西個別指導学院

はじめに

多様化する中学受験。
中学受験を希望するご家庭も、
「偏差値が高い学校」に行くことだけが目的ではなく、
「いい環境で勉強させたい」
「将来を見据えて私立に入れたい」
という理由で受験を検討される方が増えています。

また、入試のスタイルも
従来の学科型だけではなく、
適性検査型や英語を使った入試など、
さまざまな方法が取り入れられています。

この冊子では、大きく変化している中学入試について
「どんな変化があったのか」や
「どんな準備が必要なのか」、
「志望校の選び方」など、
中学受験が気になる保護者の方に
お役立ていただける情報をお伝えします。

大切なお子さまの将来を考える
一助になれば幸いです。



目次

第1章

変化する中学受験

■入試で問われる力が変化している 05

COLUMN 大手進学塾のカリキュラムにも変化

■難関校以外の中学校でも倍率アップ 09

第2章

学年別の対策ポイント

小学校1～3年生 12

- 規則正しい生活・学習習慣を身につける
- 読み書き・計算を早くできるようにする
- 読書や運動、生活・社会体験などの機会を作る
- 学びの「軸」について考え始める

小学校4年生 18

- 4教科の基礎学力を定着させる
- 学校見学へ行き、中学受験を自分事化させる

小学校5年生 23

- 問題をじっくり考え、繰り返し学習する
- 10校、見学する

目次

小学校6年生

29

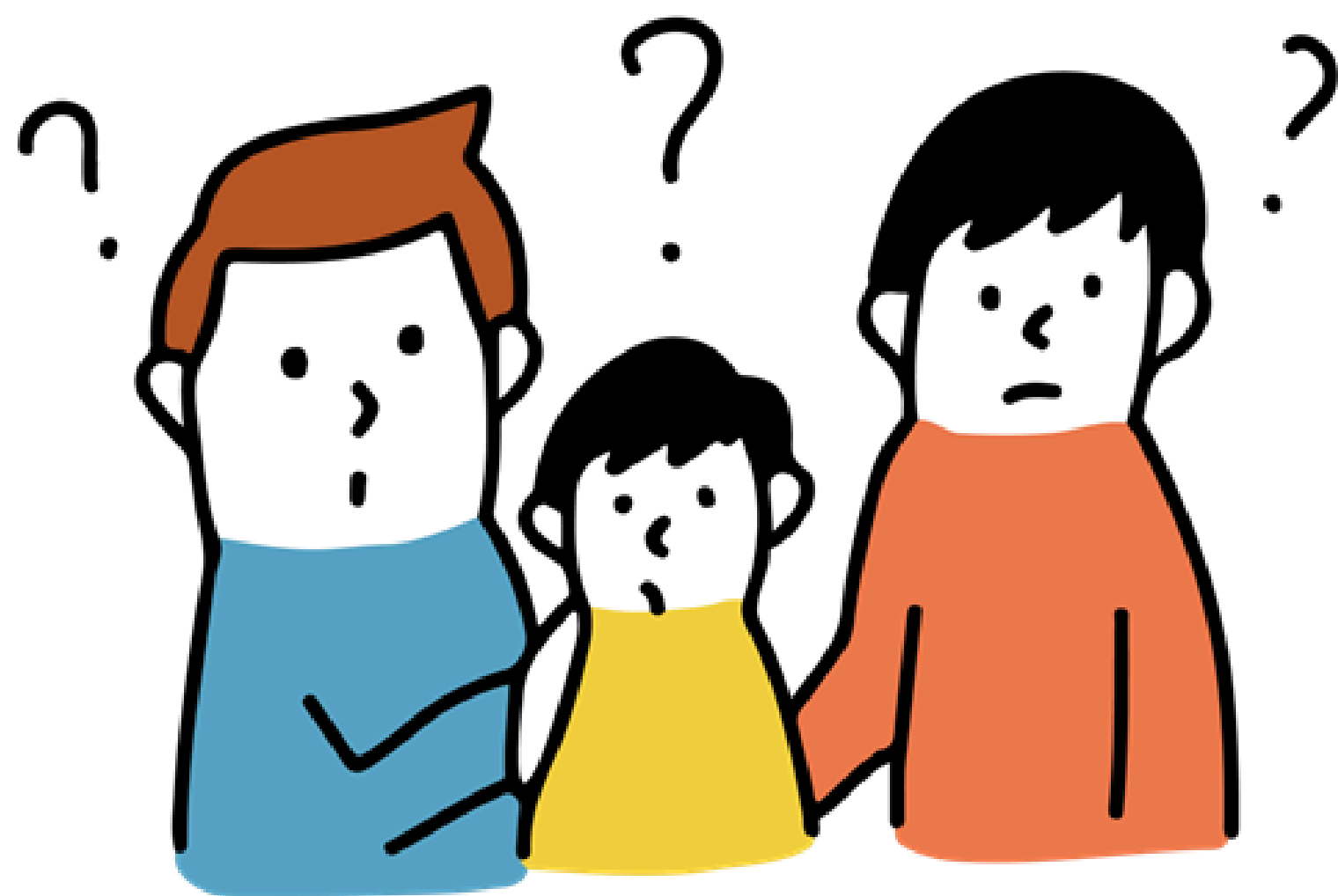
- 夏休み前までに
さまざまな問題に対応できる力をつける
- 夏休みが終わるころに第一志望校を決定する
- 志望校合格に向けた対策をする
- 出願校をきめる

さいごに

36



第1章 変化する中学受験



一昔前とは様子が変わっている中学受験。
保護者の方が小学生の頃は、
「偏差値の高い中学に入る」ために
「小学校4年生ぐらいから準備を始める」人が
多かったのではないのでしょうか。

昨今の中学受験の中で、
大きく変化したのは以下の2つです。

2 中学受験 つの変化

- 1 入試で問われる力が変化
- 2 難関校以外の中学校でも倍率がアップ

第1章 変化する中学受験

1 入試で問われる力が変化

「教育制度改革」という言葉を耳にしたことがある方もいらっしゃるかと思います。

今、世の中は「少子高齢化」「AI/ITの進化」「グローバル化」など、過去に例を見ない速さで変化しており、社会で必要とされる能力も変わってきています。その変化する社会に合わせて教育内容を変えていこうというのか「教育制度改革」です。

教育内容が変わると、学校が求める人材が変わり、入試が変わります。

たとえば、**小学校英語の必修化**です。

グローバル化する社会の中で活躍する人材を育成するために、小学校英語が必修化されました。

このような流れから、入試にも**英語を取り入れる**中学校がでてきており、その数は増加傾向にあります。

求められる力が変化！

自ら課題を発見して
周囲と協力し解決する力が必要に！

学校教育が変化！

主体的で対話的な深い学びに変化。



学力の測り方が変化！

思考力・判断力を問われる問題が出題。
グローバル化に対応できる英語力が問われる。

第1章 変化する中学受験

①入試で問われる力が変化

また、学科試験の問題も変化しており、思考力・論理力を必要とする問題が出題されるようになっていきます。



近年の中学入試問題 出題傾向

- 細かい知識を問う問題や、特殊な方法で解く問題が減っている
- 問題文や選択肢などの文章量が増えている
- 問題文や資料をもとに情報を整理し、知識や技能を組み合わせながら工夫して解く問題が増えている

数年前の中学受験では、身につけた知識や技能（解き方）をいかして、どれだけ早く・正確に答えを出せるかを問う問題が中心でした。そのため、学習内容の「インプット（知識・技能を習得する）」と「アウトプット（学んだ内容を活かして問題を解く）」を繰り返すことで、中学受験に向けた対策を行っていたのが当時の受験生たちです。

しかし、今後の中学入試問題に対応していくには、新しい力を身につける必要があります。

第1章 変化する中学受験

COLUMN

大手進学塾のカリキュラムにも変化が？！

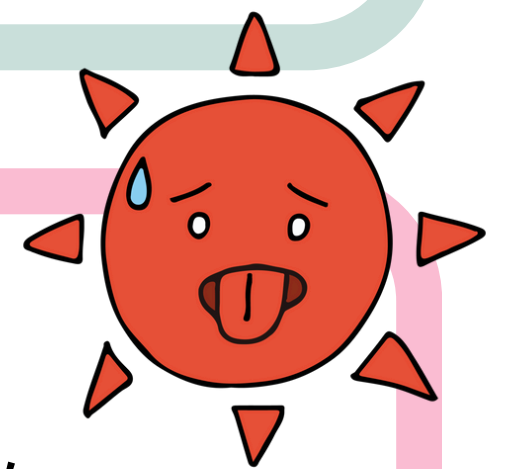
昨今の入試問題で求められる力を身につけるためには、それなりの時間が必要です。中学入試問題の傾向に合わせて、大手中学受験塾の学習カリキュラムも、次のように変わっています。

以前

- 小学4年生になる前の小学3年生の2月から学習をスタート
- 小学6年生の夏休み前に単元学習を終了させる
- 小学6年生の夏休み（夏期講習）で、学習内容の総復習を行う
- 小学6年生の9月以降は、入試に向けた実践的な学習を行う

最近

- 小学6年生になる前（小学5年生の1月）に単元学習を終了させる
- 夏期講習などの長期休暇中の授業は、総復習ではなく、予習カリキュラムな場合も



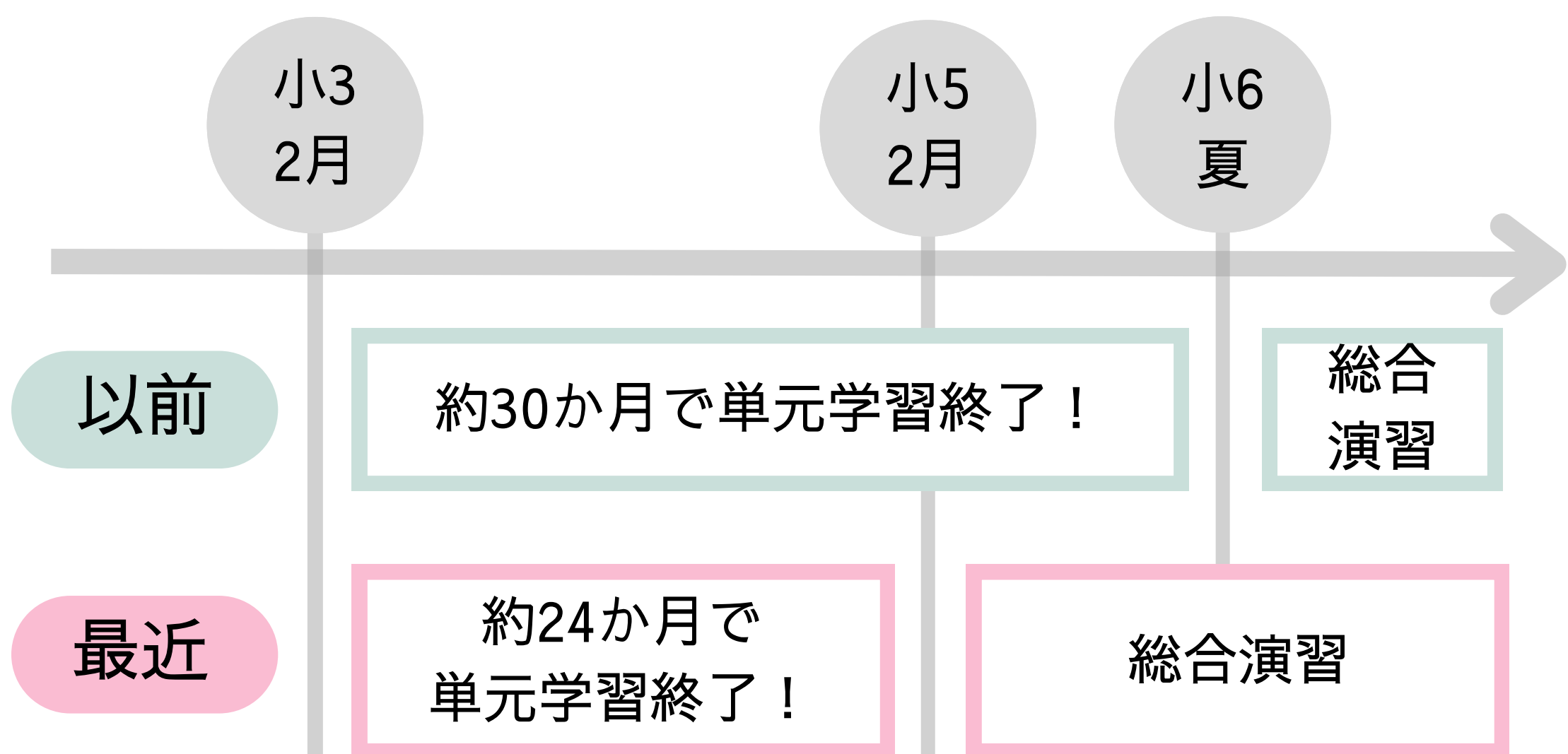
第1章 変化する中学受験

COLUMN

大きな変更点として、以前よりも単元学習を終える時期が大幅に早まっています。小学5年生の1月までに単元学習を終了させることが、中学受験に向けた学習のスタンダードになりつつあります。

また、これまで夏期講習などの長期休暇中の授業では学習内容の総復習をメインに行っていたものの、先の単元に進む予習のカリキュラムに変更している塾もあります。

このように、多くの学習塾では、以前と比べてカリキュラムの進むスピードが早くなっています。



1.25倍のスピードで
授業が進む！？



第1章 変化する中学受験

2 難関校以外の中学校でも倍率がアップ

コロナ禍の状況のなか、私立中学校は一般的な公立中学校よりも柔軟で素早い対応（オンライン授業の導入など）を行っていました。

これをきっかけに私立中学校へ注目が集まり、偏差値の高低にかかわらず魅力的な教育を行っている学校が増えていることが、多くの保護者さまに知られるようになったのです。

★ 魅力的な教育を行っている学校の例

- ★ 独自の英語教育や理数教育に力を入れている学校
- ★ 校風が自由な学校
- ★ 一般的な公立中学校では受けられない「探究学習」を行っている学校
- ★ 面倒見がいい学校
- ★ 合格実績が伸びている学校
- ★ ICT教育に力を入れている学校



第1章 変化する中学受験

②難関校以外の中学校でも倍率がアップ

保護者さまにとって「自分の子どもを通わせても良いかも！」と思える学校の選択肢が増えたことで、1人あたりの出願校数が増えている傾向にあります。

首都圏模試センターの発表によると、2023年度の受験生1人あたりの平均出願校数は6.92校、2024年度の受験生1人あたりの平均出願校数は7.19校でした。

さらに最近では、受験日の追加や変更・午後から実施する試験（午後入試）の設定などを行っている私立中学校も増えています。受験生が複数の学校を受けやすい環境が整えられていることにより、1人あたりの出願校数が増えて、全体的な中学受験の倍率がアップしているのです。

このような環境変化も踏まえて、中学受験に向けた準備・対策を始めることが必要になります。

受験当日に合否がでる学校もあるため、
合否結果をみて
翌日の受験校を変える...という受験の仕方も！

合格がとれたから、
明日はA中学校に
チャレンジ！



第2章 学年別の対策ポイント

社会の変化に伴い、教育内容も学校が求める人材も変わっているため、入試の内容も変わってきている中学入試。受験する学校によって、対策しなければならないことが変わっているため、**学校によって「いつまでに」「何をすべきか」は異なります。**

また、中学受験をする目的もご家庭によって異なるため、小学校低学年から準備が必要なケースもあれば、小学校6年生から準備を始めれば間に合うケースもあるなどさまざまです。

中学受験をする目的や目指す学校に合わせた対策が大切ですが、「中学受験の基本的な流れ」として、「高い偏差値の中学校を目指す」方向けに「やっていたほうがいいこと」をご紹介します。



第2章 学年別の対策ポイント

小学校1～3年生

小学校低学年（1～3年生）の時期は、長時間机に向かって学習したり、具体的な志望校を決めたりする必要はありません。

中学受験に向けて、大きく次の4つのことに取り組んでいきましょう。

- 1 規則正しい生活習慣や学習習慣を身につける
- 2 読み書きや計算を速くできるようになる
- 3 読書や運動、生活・社会体験などの機会をつくる
- 4 学校選びの「軸」について考え始める



第2章 学年別の対策ポイント

小学校1～3年生

1 規則正しい生活習慣や学習習慣を身につける

小学校低学年（1～3年生）の時期は、夜更かしをしない、朝寝坊をしないなど、**規則正しい生活習慣を身につける**ことが大切です。そして、毎日の規則正しい生活習慣の中で、お子さまが短時間でも勉強する習慣をつけられるようにしましょう。

また、この時期は「分かった」「できた」など、お子さまが学習する**楽しさを感じられる経験**を重ねていくことも重要です。

中には、低学年のうちから小学4年生以降に学ぶ内容を教えるような中学受験塾もあります。しかしそのような塾でも、小学4年生になる前（小学3年生の2月）にスタートするコースで、改めて学べるカリキュラムを用意しています。

小学校低学年（1～3年生）のお子さまの場合、難しい内容を学ばせたり、無理をして学習スピードを早めさせたりする必要はないのでご安心ください。



第2章 学年別の対策ポイント

小学校1～3年生

2 読み書き・計算を速くできるようにする

小学校低学年（1～3年生）のうちに、お子さまが読み書きや計算を速くできるように練習させましょう。なぜなら、読み書きや計算のスピードを速めておけば、学習のスピードをアップでき、中学受験への対策もスムーズに進められるようになるからです。

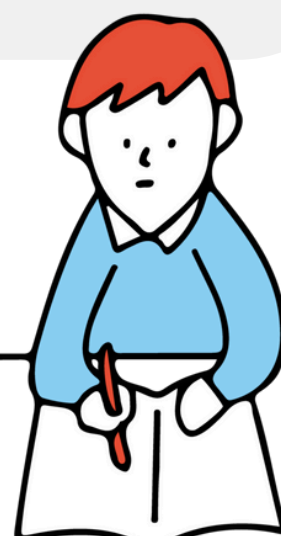
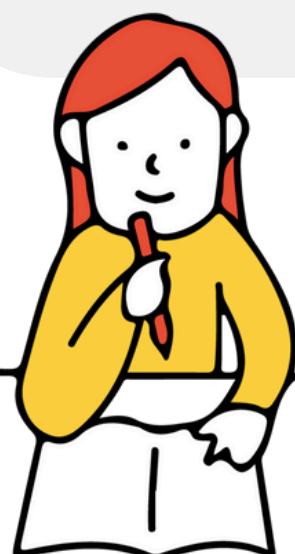
お子さまが小学校低学年（1～3年生）のうちには、必要とされる学習量が少ないので、ゆっくり時間をかければ全ての学習範囲を終えられるかもしれませんが、しかし、学年が上がるにつれて学習量が増えていくので、読み書きや計算のスピードがゆっくりなままだと、学習に追いつけなくなってしまいます。

お子さまが小学4年生以降の学習にもついていけるように、文章を正確に早く読める、（それなりのきれいさで）字が早く書ける、計算が早くできると言った力を身につけさせることが重要です。

100マス計算が
1分でできる
Aちゃん

10分で
20問正解！

例えば、
同じ「10分」でも...



100マス計算に
4分かかる
Bくん

10分で
5問正解...

計算スピードが速いと学習スピードが上がって効率がいい！

第2章 学年別の対策ポイント

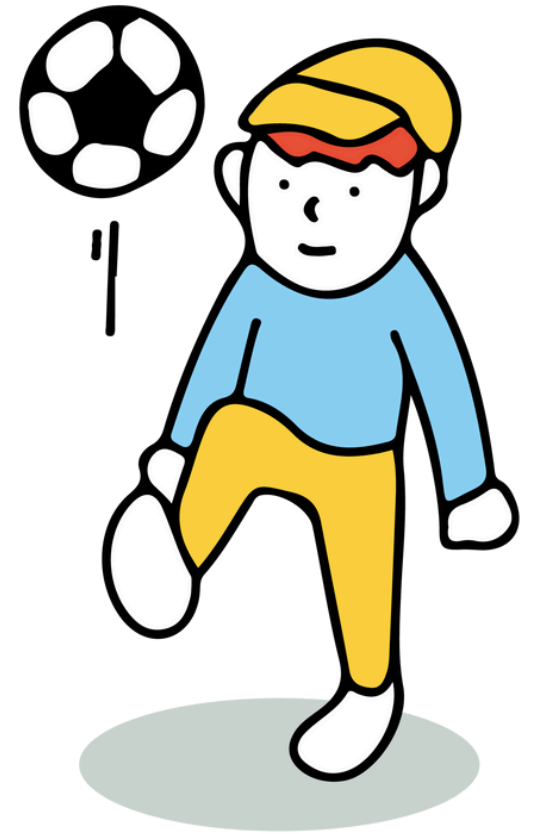
小学校1～3年生

3

読書や運動、生活・社会体験などの機会をつくる

小学校低学年（1～3年生）の時期は、読書や、スポーツクラブなどを通じた適度な運動の習慣を身につけさせることも大切です。

読書は、お子さまが**語彙力**を増やしたり、文章に慣れたりするために効果的です。



また、中学受験は学力だけでなく「**気力**」や「**体力**」も必要になるので、適度な運動を習慣づけさせることも重要になります。

日頃から運動の習慣がなく、体力が足りないお子さまの場合、小学校高学年になったときに多くの休憩・睡眠時間が必要になり、学習時間が少なくなってしまう可能性も…。

高学年になればなるほど学習時間が増え、読書や運動に使える時間が少なくなっていくため、これらの習慣は小学校低学年（1～3年生）のうちに身につけさせましょう。

第2章 学年別の対策ポイント

小学校1～3年生

3

読書や運動、生活・社会体験などの
機会をつくる

さらに、日頃の生活のなかで、

- 家事のお手伝いする
- 積極的に公園で遊んだり動物と触れ合ったりする
- 博物館や科学館に足を運ぶ
- 旅行に行く
- サマースクールに参加する

など、お子さまにさまざまな経験・体験の機会を与えることも重要です。

近年の中学入試問題では、実際の生活や社会と関連させて考えさせる問題が増えています。日頃からお子さまにさまざまな経験・体験の機会を与えることで、

「あのときの出来事と似ている」

「そこに行ったことがある」

などの気付きをきっかけに、
入試問題を解きやすくなる
と言ったメリットがあります。



第2章 学年別の対策ポイント

小学校1～3年生

4 学校選びの「軸」について考え始める

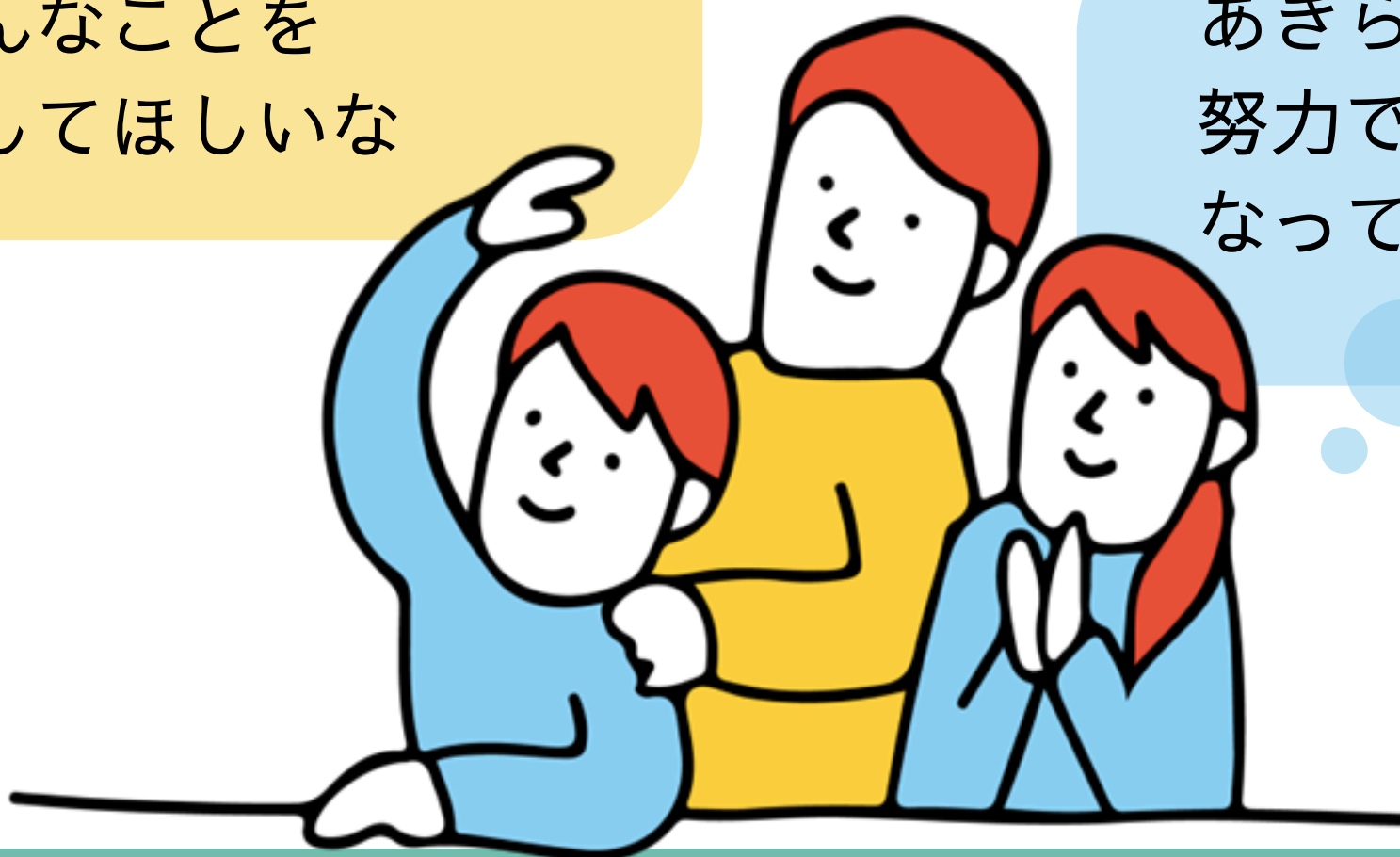
小学校低学年（1～3年生）の時期は、保護者さまとお子さまで、ご家庭の教育方針や、お子さまの得意な教科・興味のあること・将来の夢など、学校選びの軸となるようなことを話し合ってみてください。

なぜなら、学校選びの軸があやふやになってしまうと、志望校を決めるときに偏差値やネット上の評判に振り回されてしまう可能性があるからです。

お子さまと目線合わせした内容をもとに、
「お子さまにどんな教育を受けさせたいのか」
「将来どんな大人になって欲しいのか」
などを考えていきましょう。
また、この時期は、幅広い種類の学校を調べ始めておくことも必要です。

勉強だけじゃなくて、
いろんなことを
体験してほしいな

あきらめずに
努力できる子に
なってほしいわ...



第2章 学年別の対策ポイント

小学校4年生

小学4年生では、大きく次の2つを意識して、日々の学習や志望校選びに取り組んでいきましょう。

1

4教科（国語、算数、理科、社会）の
基礎学力を定着させる

2

お子さまと一緒に学校見学へ行き、
中学受験を自分ごと化させる



第2章 学年別の対策ポイント

小学校4年生

1

4教科（国語、算数、理科、社会）の基礎学力を定着させる

4教科（国語、算数、理科、社会）の基礎学力を定着

基礎学力を定着させるには、お子さまがモチベーション高く、主体的に学習に取り組めるように、家庭内で保護者さまがサポートしていく必要があります。

＼お子さまが集中して勉強に取り組めるように／

学習環境を整える、学習時間を確保する

個人差や目標差もありますが、家でのお子さまの学習時間は、**毎日2時間程度**を目安としてください。

じっくり問題に取り組む 学習姿勢を身につけ始める

宿題は忘れずにやる、単に問題を解く...といった基礎的なことだけでなく、文章の細かい点まで詳しく読む.....といった学習姿勢も重要です。

模擬試験を受け始める

お子さまの学習状況の確認や、小学5年生以降の志望校選びに役立ちます。

第2章 学年別の対策ポイント

小学校4年生

2

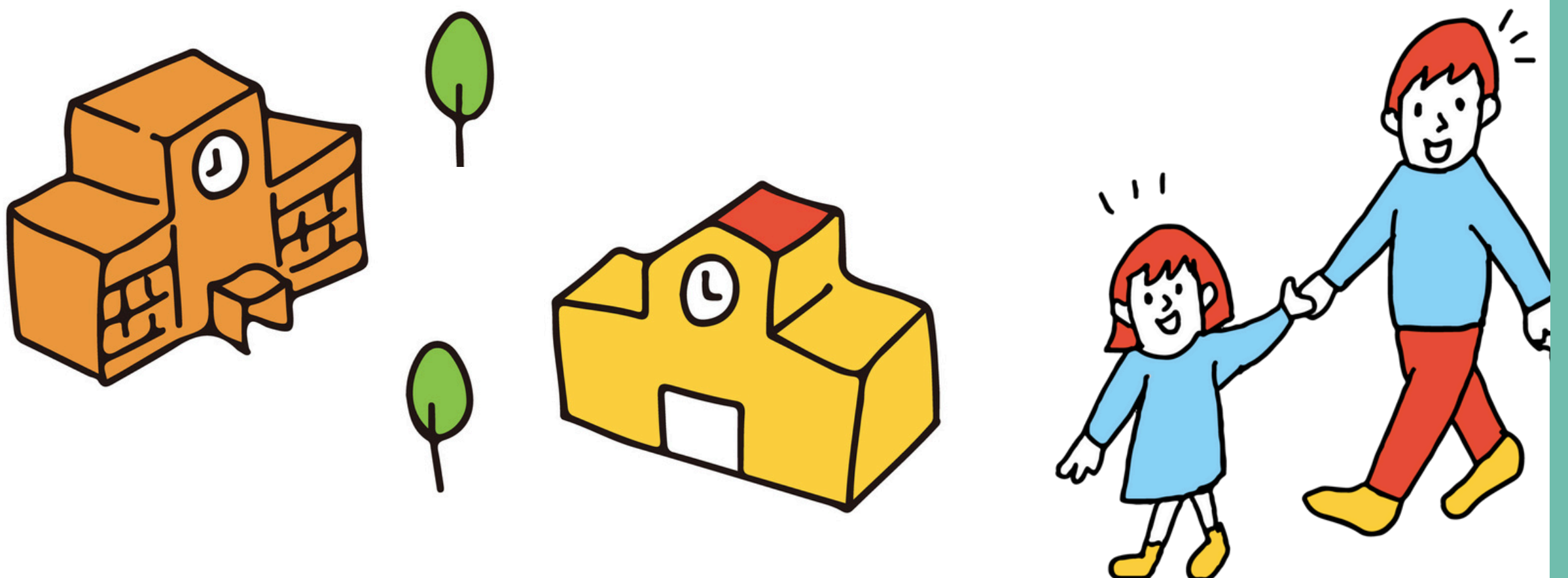
お子さまと一緒に学校見学へ行き
中学受験を自分ごと化させる

小学4年生になったら、小学3年生までの期間で考えた「学校選びの軸」をもとに、色々な学校について調べてみてください。

また、この時期は、お子さまと一緒に学校見学に行ったり、学校選びをしたりすることが大切になります。

小学4年生は、お子さまに自我が少しずつ芽生えてくる時期です。その時期に、お子さまが強制的に勉強させられている状態になっていると、本人のモチベーションが下がり、小学5年生以降の学習に支障が出る可能性も…。

お子さまに「なぜ、自分は中学受験に向けて学習しているのか」を理解させて、勉強のモチベーションを保たせるためにも、本人が関心を持てるような学校の見学に連れていきましょう。



第2章 学年別の対策ポイント

小学校4年生

2

お子さまと一緒に学校見学へ行き
中学受験を自分ごと化させる

なお、小学4年生の時期に学校見学へ行くときのポイントは、**幅広い種類の学校**を見ておくことです。受験までにまだ時間がある時期だからこそ、先入観にとらわれず、さまざまな種類の学校を見ておくことで、お子さまに合う学校を見つけやすくなります。

次のチェックポイント例を参考に、お子さまに合う学校を探してみてください。



学校選びをするときのチェックポイント

- 共学か別学か
- 面倒見の良い学校か、自主性を尊重する学校か
- 外国語教育や理科教育、探究活動など、特定の分野に力を入れているか
- お子さまの興味関心が持てる行事や課外活動があるか
- 「大学付属校」か、「半付属校」、もしくは「進学校」か

第2章 学年別の対策ポイント

小学校4年生

2

お子さまと一緒に学校見学へ行き
中学受験を自分ごと化させる

私立中学校にはさまざまな種類があり、それぞれに違った良さがあります。

お子さまと一緒に複数の学校へ足を運ぶことで、「中学生になったらあの学校に通いたい」「この学校の雰囲気良さそう」など、お子さま自身も**学校選びに参加する機会**を作れます。

本人が学校選びに関わることは、中学受験の主役が保護者さまではなく、お子さま自身であると実感させるために重要です。



第2章 学年別の対策ポイント

小学校5年生

小学5年生では、主に次の2点を意識して、中学受験対策に取り組みましょう。

1

問題をじっくり考え、繰り返し学習する

2

お子さまが興味を持った学校を中心に
10校程度の学校へ足を運ぶ



第2章 学年別の対策ポイント

小学校5年生

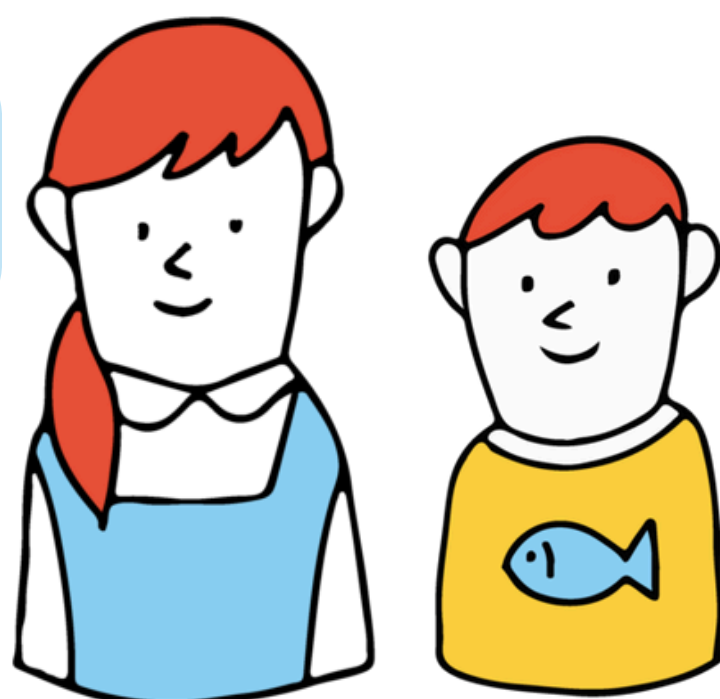
1 問題をじっくり考え、繰り返し学習する

小学5年生では、各教科の基礎知識を身につけたうえで、じっくり考えながら問題を解き、繰り返し学習しましょう。繰り返し学習をすることで、**問題に慣れる**ことができると同時に、**学習内容の理解・定着**につながります。

また、小学5年生からは、複数の知識・技能（解き方）を組み合わせる問題が出てくるなど、学習内容がより複雑になります。そのため、単に丸暗記したり、問題のパターンを覚えたりする勉強法では、出題範囲の広い模擬試験などで高い点数をとれなくなってきました。

複雑な問題に対応できるようになるには、ただ与えられた問題を解いて答え合わせするだけでなく、「なぜこの問題はその答えになるのか」「なぜこの解答は間違っていたのか」など、**問題を解くプロセス**をお子さま自身に**考えさせる学習**を行いましょ

どうして
その答えに
なったの？



これは～～～...

第2章 学年別の対策ポイント

小学校5年生

1 問題をじっくり考え、繰り返し学習する

同時に、次の2つの内容に取り組むことも大切です。

- 勉強配分のバランスを上手くとれるように心がける
- 同じ種類の模擬試験を何回も受けさせる

小学5年生は、特定の教科や学習分野で好き嫌いが出やすい時期です。反抗期が重なることもあり、お子さまが嫌なことはやらなかったり後回しにしたりしてしまうことで、得意な学習と苦手な学習の差がつきやすくなります。

できるだけお子さまの苦手な分野を増やさないためにも、保護者さま側で「どの教科・分野をどのくらい勉強させるか……」と言った、勉強配分のバランスを上手くとれるように心がけましょう。



第2章 学年別の対策ポイント

小学校5年生

1 問題をじっくり考え、繰り返し学習する

また、小学5年生になったら、同じ種類の模擬試験を毎回受けさせるようにしてください。

模擬試験の結果からお子さまの学習進捗・理解度をチェックし、必要に応じて今後の学習計画や学校選びを見直すことが必要になる場合があるからです。

模試は、今の状態を測る「健康診断」のようなものです。

模試を見ると、ついつい偏差値や合否判定、できていない単元に目が行きがちですが、「**正答率が高いのに解けなかった問題**」は要注意。受験生ができている問題なのに、お子さまだけ間違ってしまった...というのは、今後差がついてしまうポイントになりがちに。このような問題は、なぜ解けなかったのか、どこを間違えたのか、しっかり分析をして次に備えましょう。



第2章 学年別の対策ポイント

小学校5年生

2

お子さまが興味を持った学校を中心に「10校」の見学へ行く

小学4年生の学校見学でお子さまの反応が良かった学校と、同じような特徴を持つ学校を見つけて、実際に足を運びましょう。

首都圏では、2024年度の1人あたりの平均出願校数は7.12校であるため、小学5年生のうちに見学へ行く学校の数は「10校」を目安にすると良いです。

なお、実際に足を運ぶ学校は、模擬試験を受けて分かった「**現在のお子さまの偏差値**」から**±10ポイントの範囲**で探すことがおすすめです。

+10pt

A中学校

B中学校

C中学校

D中学校

E中学校

F中学校

G中学校

現状
学力

-10pt



第2章 学年別の対策ポイント

小学校5年生

2

お子さまが興味を持った学校を中心に
「10校」の見学へ行く

±10ポイントの偏差値の範囲で探すことが
大切な理由

小学5年生くらいの時期から、受験生の成績に大きな差がつき始めます。入試までに大きく成績を伸ばす受験生もいれば、現状の偏差値と変わらないまま入試を迎える受験生、偏差値が下がってしまう受験生もいます。

「受験までに子どもの偏差値をアップさせて、難易度の高い学校を目指させたい！」と思う保護者さまも多いかもかもしれません。

しかし、実際は体調を崩してしまったり、学校や塾での人間関係に悩んだりするなど、学習面以外の理由で、お子さまの成績が下がってしまうことも……。

だからこそ、ご家庭の方針やお子さまの興味関心などの軸に加えて、現在のお子さまの学力と今後の変化も視野に入れた学校選びが大切になるのです。

第2章 学年別の対策ポイント

小学校6年生

小学6年生になったら、大きく次のステップで中学受験に備えていきましょう。

- 1 夏前までにさまざまな問題に対応できる力をつける
- 2 夏休みが終わる頃に
第一志望校を決定する
- 3 志望校合格に向けた対策を行う
- 4 出願校を決める



第2章 学年別の対策ポイント

小学校6年生

1

夏前までにさまざまな問題に対応できる力をつける

小学6年生の夏前までは、次の2つのポイントを意識して、学習に取り組ませます。

- 一通りの基礎知識・技能（解き方）が身についている状態にする
- 複数の知識・技能を組み合わせた問題を繰り返し解き、さまざまな問題内容に対応できる力を身につける

また、夏休みに入る前までに、お子さまの興味関心はもちろん、直近の模擬試験での偏差値も踏まえたうえで、仮置きでも第一志望校を決定しておく必要があります。

なぜなら、「志望校合格に向けて何が足りないのか……」といった、志望校とお子さまの**学習進捗のギャップ**を理解するためです。

このギャップを理解することで、中学受験までに足りない部分を補うために必要な学習量や、夏休みの期間で学習する内容の優先順位を決めやすくなります。

第2章 学年別の対策ポイント

小学校6年生

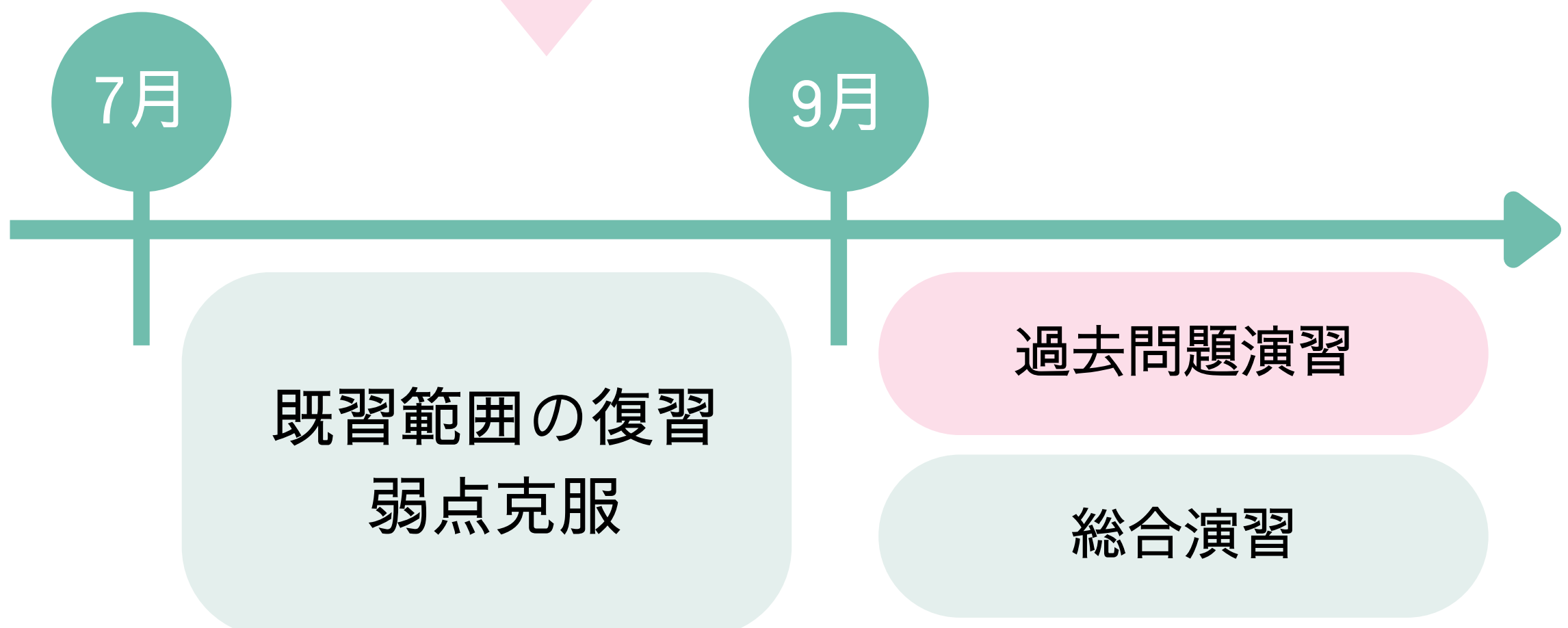
2 夏休みが終わる頃に第一志望校を決定する

夏休みが終わる時点で、これまでの学習内容を総復習し、志望校合格に足りない部分の学習を克服できている状態にさせることが理想です。

そして、お子さまの学習の進捗を確認しつつ、**夏休みが終わる頃に第一志望校を決定**しましょう。もし学習進捗が遅れている場合は、「何月までに第一志望校を確定させるのか」という期限を決めるといいです。

期限を決めておくことで、第一志望校の決定をずるずると後回しにして、志望校対策に使う時間がどんどん減ってしまう……といった事態を防ぎましょう。

秋から過去問題演習に入れるように
第一志望校は夏休みが終わるまでに決めましょう！



第2章 学年別の対策ポイント

小学校6年生

3 志望校合格に向けた対策を行う

小学6年生の夏休み以降は、次の3つのステップに沿って、志望校合格に向けた対策をスタートさせましょう。

さまざまな知識・技能（解き方）を組み合わせるなど、総合的な問題を本人なりに工夫して解く力を身につける

各教科のさまざまな分野や単元からランダムに問題が出題されても、対応できる力を身につける

①と②が身についた状態で、受験校（志望校）の過去問題を解く練習をする

①・②の力が身についたうえで志望校の過去問題に取り組みせると、「今の子どもで、実際に第一志望校に合格できるのか……」と言った、模擬試験の志望校の合否判定だけでは分からないことを確かめることができます。

第2章 学年別の対策ポイント

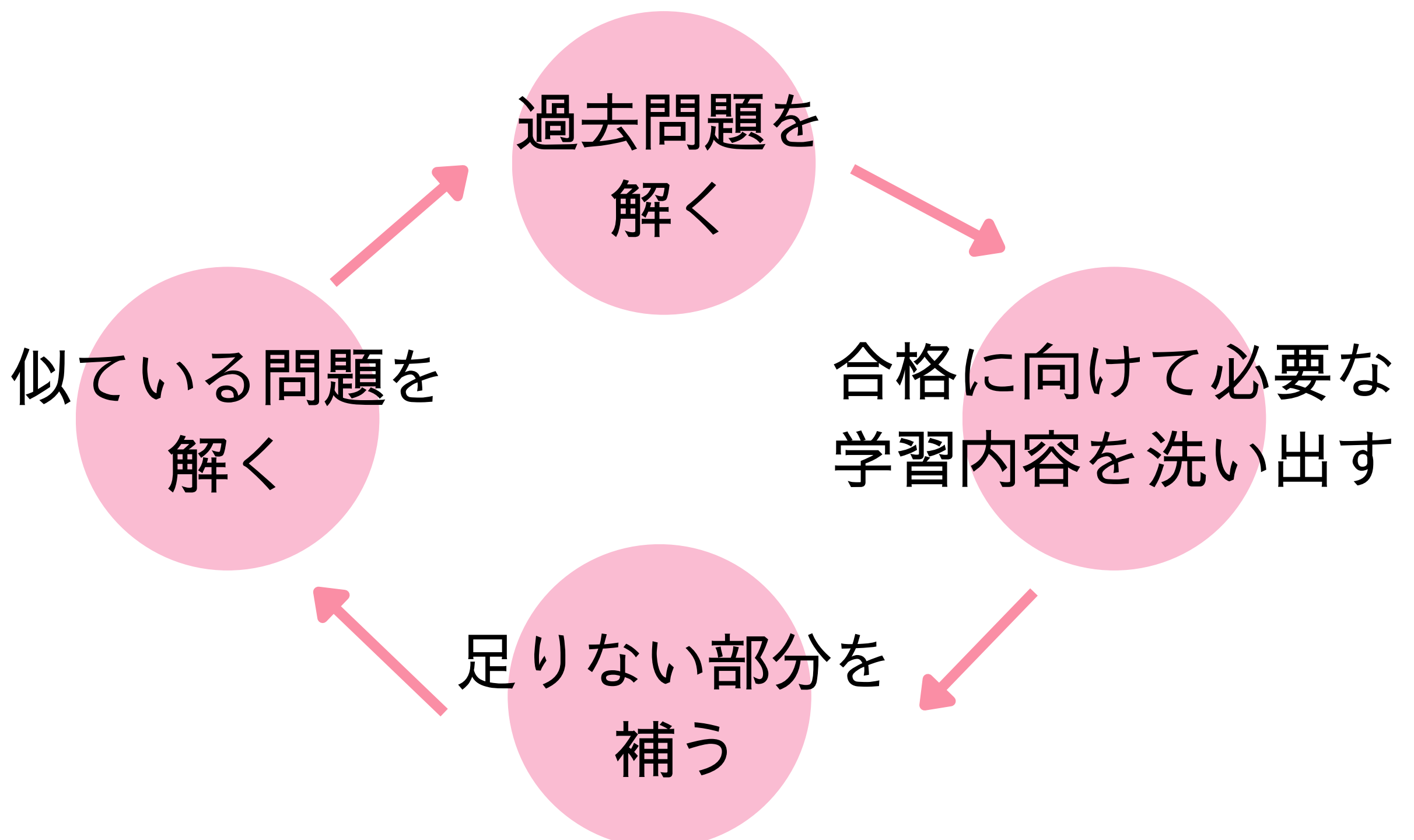
小学校6年生

3 志望校合格に向けた対策を行う

注意点として、③の過去問題に取り組み始める時期は、お子さまの志望校によって、**秋からでは遅い場合**もあります。

「志望校の難易度に合わせて、どのタイミングから志望校の過去問題を解き始めさせるのか」、「そこから逆算すると、いつまでに志望校を確定させる必要があるのか……」といったことを考えて、過去問題の演習を開始させる時期を決めましょう。

なお、過去問題は1回解くだけでは効果が薄いです。志望校に合格するラインの点数を取れるようになるには、**繰り返し演習**を行う必要があります。



第2章 学年別の対策ポイント

小学校6年生

3 志望校合格に向けた対策を行う

また、近年の倍率がアップしている中学受験では、ただ問題を解けるようになるだけでなく「**得点力**」を上げることが求められています。

得点力とは

問題を解く順番や時間配分を工夫しながら、答えを解答用紙（欄）に正しく記入して、制限時間内に1点でも高い点数をとる力を「得点力」と言います。

中学受験では、制限時間内に1点でも高い点数をとれるようになることが求められます。なぜなら、中学入学試験（筆記試験）は問題が解けるかではなく、制限時間内で解答用紙（欄）にどれだけ正解の答えを書けたかで合否が決まるからです。

「学力」だけでなく「得点力」も上げないと、「問題は解けたのに、時間内に答えられなかった……」というように、点数や結果につながらない可能性も。

過去問題演習の対策には、多くの時間がかかってしまいます。受験当日までに完了できるような計画を立てて、お子さまにしっかり取り組ませることが重要です。

第2章 学年別の対策ポイント

小学校6年生

4 出願校を決める

以下の基準を参考に、学校を難易度別に分けて考え、お子さまが出願する学校を決めましょう。

難易度	目標の基準
チャレンジ校	お子さまの偏差値+5~10pt以上の学校
実力適正校	模試の判定が常に80%以上の学校
押さえ校	お子さまの偏差値-5ptの学校
安全校	お子さまの偏差値-10ptの学校

同時に、保護者さまは出願校の「入試説明会」に参加し、出願校が「入試問題体験会」や「プレテスト」を実施していれば、お子さまに参加させましょう。

入試説明会では、過去の入試問題の正答率・出題方針などを説明してくれる学校もあります。過去の出題傾向を掴めると、お子さまの志望校合格率や足りない部分をより明確にすることが可能です。

また、入試問題体験会やプレテストは、実際に入試会場となる受験校の教室を使って実施される場合が多いです。受験前に足を運ばせることで、お子さまが入試本番の会場の雰囲気になれることができます。

さいごに

少子化に伴い、小学生の人口は減少傾向にありますが、中学受験率は上がってきており、首都圏では約5人に1人が中学受験をする世の中になっています。

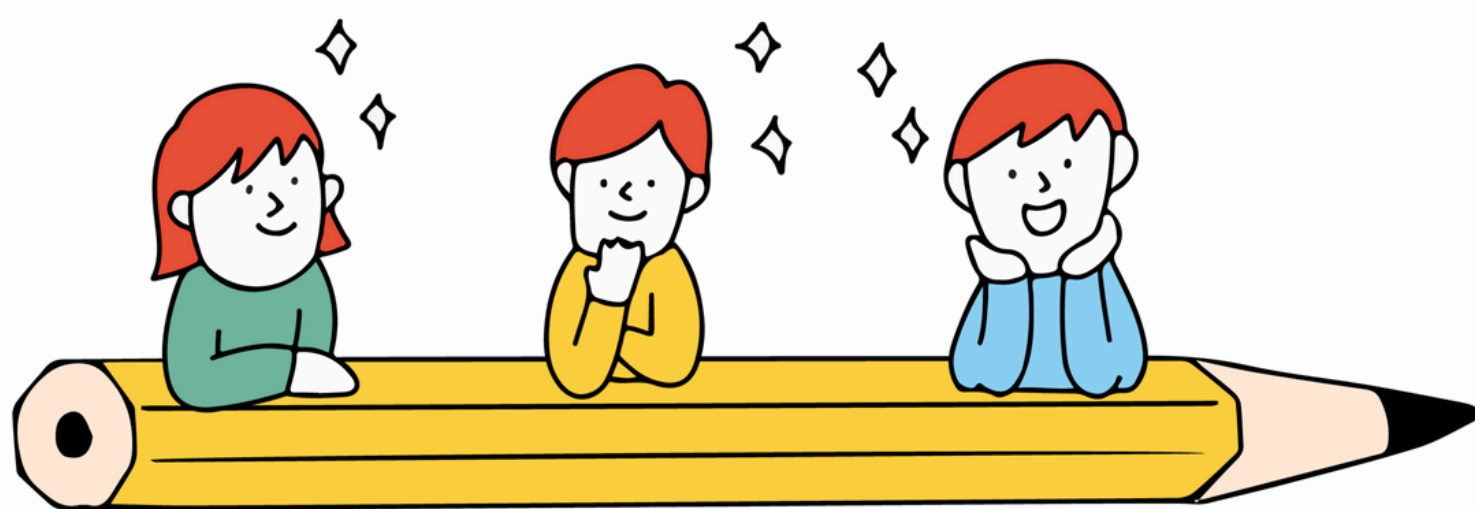
また、中学校も「魅力ある学校づくり」に努める中学が増え、偏差値だけは図れない付加価値のある学校が増えました。

この先の大学受験や先の見通しがつきにくい世の中の状況を鑑みると、「中学受験が気になる…」という保護者の方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

もし、「受験するとは決めていないけど準備だけはしておきたい」「今まで考えていなかったけど、受験をすることに決めた」「子どものペースに合わせて受験対策をしたい」とお考えでしたら、東京個別・関西個別を頼ってください。

中学受験をする目的に合わせて、お子さまの性格や学習状況に合わせて、必要な対策をご提案します。

お子さまのことを思うからこそ悩みが多い中学入試。よりよい選択ができるように、私たちが精一杯サポートします。





中学受験

HAND BOOK

**いまどきの中学受験が
わかる！**

東京個別指導学院・関西個別指導学院
公式サイト

<https://www.kobetsu.co.jp/>

© 2024 (株) 東京個別指導学院